

新年のごあいさつ



越前町長

内藤 俊三

新年、あけましておめでとうございます。町民の皆様には、平成29年の新春を清しい気持ちでお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中に賜りました数々のご厚情に感謝し、本年もなにとぞ変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、印象強いのが、熊本・大分を襲った地震災害であります。震度7クラスの地震が頻発し、住宅の倒壊等により現地の住民は広範囲かつ長期にわたって避難を余儀なくされました。改めて、災害に強いまちづくりへの重要性を再認識いたしました。

世界に目を向けますと、6月にはイギリスで実施されたEUから離脱を問う国民投票、11月にはアメリカ次期大統領の選挙、その投票結果に世界が驚きました。その後のトランプ氏の発言で、日本が参加するTPP協定は、発効を見通せない状況といわれております。

一方、日本では、公職選挙法の改正により、昨年の6月から選挙年齢が18歳に

本町の漁業を、県外の若者が職業として選択してくれたことを大変嬉しく思っています。引き続き新年度の応募に期待を寄せております。

また、2年前に越前地区に開設した居住体験施設モハーージュは、初年度に14件27名の方、延べ117日間漁村暮らしを体験頂き、その中から昨年転入移住者を迎えることができました。また昨年10月には、宮崎地区に2番目の施設ラフォーラを開設しました。こちらは静かな里山の方との交流などを通して、越前町のくらし良さを感じていただきたいと思います。

新年を迎え、越前町は、これからも観光立町に向けた拠点施設の整備、地域産業の振興と担い手の育成、福井国体に向けた施設や環境の整備、道路などのインフラ整備、防災対策の強化、包括的な子育て支援など、真に必要な町民のニーズを踏まえた施策を着実に展開し、皆様とともに「ふるさと越前町」の創生の実現に邁進して参りますので、一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

新春の門出にあたり、町民の皆様方のご多幸を心からお祈り申し上げます、新年の挨拶といたします。

さて、観光では、7月に越前がにミュージアムがリニューアルオープンし、道の駅エリアが充実したことで10月には道の駅「越前」の来館者数が150万人を突破しました。今後は、訪れた多くの観光客を越前海岸から歴史と伝統を誇る織田・宮崎・朝日地区へと誘い、町内経済の好循環につなげていくことが大切であると思っております。

さて、町村合併して12年、合併の特例もほぼなくなり、今年を含めた次期4年は、本町にとって本当の意味で自立をすすめる時期となります。今後は、まちづくりの財源が細る中で、地方創生を巡る自治体間競争も激しさを増してくるものと思われませんが、常に「町民ファースト」を基本に町民に安心安全と活力を与えられるまちづくりを進めて行かなければならないと思う次第です。

今年も議員一同、二元代表制の意義をしっかりと踏まえ、より良い町を創造するために努力を傾注してまいり所存ですので、旧に倍してご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお祈り申し上げます。

年頭にあたり、町民皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。



越前町議会議長

木村 繁

謹んで年の初めのご祝詞を申し上げます。町民の皆様には、ご家族お揃いで健やかに新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

旧年中は、町議会活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、今年も、私達議員も改選の年を迎え、ここに改めて、これまで4年間のご指導ご鞭撻に心から深く感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、世界では、英国のEUからの離脱の是非を問う国民投票や次期米国大統領選挙が行われ、いずれも世論調査の予想に反する「まさか」の展開に世界中が衝撃を受けました。自由主義が揺らぎ大衆迎合主義が蔓延する中で、世界の政治経済は一層混迷を深め、何が起るか予測できない世の中に入り込んだ感があります。

そうした中、我が国では、6月に官邸主導で消費税増税の再延期が決定され、7月には選挙権年齢が18歳以上に引き下げられて初めて、参議院議員選挙がアベノミクスの是非などを争点に行われました。その結果、与党が圧勝し、アベノミクスが支持されるとともに、憲法改正に前向きな勢力が参議院で3分の2を

上回ることとなりました。ただ、4年目に突入したアベノミクスについては、2017年度中での2%の物価上昇率が事実上困難となり、失敗か否かの議論はありますが、雇用情勢は改善しており、有効求人倍率も依然として高い状況にあるようです。いずれにしてもアベノミクスの恩恵が地方にまで波及し、本町においても景気回復を実感できるよう大いに期待したいものです。

一方、本町では、3月に第2次越前町総合振興計画を策定し、「ふるさと越前町」の創生を目指して新たなまちづくりを歩み始めました。4月には、新しく統合整備されたあさひ保育所および朝日児童センターを開所し、8月には新庄住宅団地の分譲も開始されました。現在22区画が契約済みとのことで、すでに住宅の建築も始まっているようです。2、3年後には子育てにやさしく快適で便利な街が形成されていることと思います。また、昨年度のモハーージュに引き続き、移住・二地域居住体験施設ラフォーラの整備など、移住者に対する住まい支援や就職支援にも取り組み、徐々にその成果も現れているようです。やはり、人口減対策は、越前町ならではの自然環境や教育・子育て